

## 桑園の密植速成化による多収穫技術

県蚕業試験場 栽桑部

### 研究のねらい

近年、本県における桑園の単価当たり繭生産量は、減少の傾向にあり、繭生産性の伸び悩みの原因の一つとなっている(県年平均 70kg / 10a 前後)。このため、桑園の密植化による多収穫技術を策定するため、適応桑品種の選定と仕立収穫法を検討した。

### 研究の成果

1. 桑品種は既存の「一ノ瀬」「改良一ノ瀬」に比べて「はやてさかり」「しんいちのせ」「みなみさかり」が密植桑園用として適している。
2. 栽植密度は、多いほど桑収穫量は増加するが、収穫、管理作業及び立地条件により多少異なり、畦間 1.0 ~ 1.5m、株間 0.3 ~ 0.5m、植付本数 2,000 ~ 3,000 本/10a が適当である。
3. 仕立、収穫法
  - (1) 仕立、低幹根刈の春切及び夏切の専用仕立とする。春切仕立は、7月上旬と9月中下旬の2回収穫が年間収量も多く葉質も良かった。
  - (2) 夏切仕立は、5月中・下旬と8月上・中旬の2回収穫が年間収量も多く葉質も良かった。
  - (3) 仕立の組合せ及び収穫時期は、飼育回数、経営規模及び慣行保有桑園の状況によって加減する。
4. 桑収穫量と繭生産可能量(10 a 当り)
  - (1) 桑の収量は、仕立方、収穫時期、地力、管理、気象条件等により多少の変動がみられる。
  - (2) 春切仕立は、年間桑生産量(全葉) 2,700 ~ 2,900kg で 135 ~ 150kg の繭生産が可能となる。
  - (3) 夏切仕立では、年間桑生産量(全葉) 2,700 ~ 3,100kg で 135 ~ 155kg の繭生産が可能となる。
  - (4) 本法を導入することにより単位当たり繭生産量を現行(県平均 70kg/10a)の 1.5 ~ 2.0 倍以上に上げることが期待できる。
5. 本法の導入により慣行の2倍以上の桑苗を必要とするため桑苗の自給化(古条、新梢挿木)を進める。また、桑苗代の低減のため小苗を利用する。

表1 桑品種（一ノ瀬と比較して）

品 種 名	枝条数	平均条長	収穫量	樹 勢	葉 質
しんいちのせ	同 じ	長 い	多 い	良 い	良 好
みなみさかり	多 い	短 い	多 い	良 い	良 好
はやてさかり	多 い	長 い	多 い	良 い	良 好
ときゆたか	同 じ	短 い	同 じ	良 い	晩秋硬化
しんけんもち	多 い	長 い	多 い	良 い	晩秋硬化

図1 仕立て、収穫法（基本）

仕立	5月中・下旬	7月上旬	8月上・中旬	9月中・下旬	収穫量(全株/10a)
春切	発芽前基部伐採 	株上40cm残し収穫 	(収穫せず) 	再発枝20cm残し収穫 	(翌年春切) 2,700 } 2,900
	1,300~1,500				
夏切	収穫後基部伐採 	(収穫せず) 	株上50cm残し収穫 	(収穫せず) 	(翌年夏切) 2,700 } 3,100
	1,000~1,100				

図2 桑及び繭生産量比較（年間：10a当たり）

